



学校だより

令和6年 9月18日(水)
No.4

諏訪市立上諏訪小学校

「通知表」について

明日から個別懇談会が始まります。個別懇談会では、お子さんの学習状況等をお伝えする目的で「通知表」をお渡しします。上諏訪小学校では、一昨年度、通知表を大きく変更しました。このことについて、昨年度に引き続き、ご説明させていただきます。

1 変更した理由は？

2020年、「学習指導要領」（学校の教育課程の指針となるもの）が10年ぶりに改訂されました。背景には、従来の何を知っているかや、その知識量が大事だとされてきた今までの学力観から、得た知識・情報を理解し、それらを自在に活用できることが求められる時代となってきたこと。これは、これからの国際社会・AI時代を生きぬいていくために子どもたちに必要な学力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力として整理され、学校においてもすべての教科等で資質・能力を育成できるよう取り組むものと変わってきたことにあります。

2 変更した内容

「**单元ごと**」 ⇒ 「**観点別評価**」に
（**覚えた知識量** ⇒ **理解し活用する力へ**）

評価項目の表記が、「单元ごと」ではなく、「**知識・技能**」「**思考・判断・表現**」「**主体的に学習に取り組む態度**」の3つの観点から評価したものに変更しました。

「観点別評価」による通知表の項目及び評価の方法や見方について、2年生の国語を例に挙げて説明します。

評価の観点	評価項目
知識・技能	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。

かつては、国語の評価で言うと「積極的に発言をしている」「習った漢字を覚えて書ける」「書かれている内容を正しく理解できる」「正確に聞き取ることができる」「すすんで読書をしている」などのように、内容や单元そのものの力がどうであるかを評価してきました。しかし「観点別評価」では、学習した様々な内容を3つの観点から分類し、それぞれの習熟度がどうであるかを評価します。

「評価の方法」は、テストだけ ではありません！

では、各観点を具体的にどのような方法で評価するのかということですが、2年生の国語の場合は次のようになっています。

評価の観点	評価する具体的な方法
知識・技能	主にテストの結果や授業の様子から
思考・判断・表現	テストの結果、授業中の発言の内容、ノートやワークシートへの記述、教科書の内容の読み取り、作成した作文 など
主体的に学習に取り組む態度	発言やノートの記述等から見られる粘り強く学ぼうとする姿勢、読みの感想や本の紹介・作文などで、自分で学習計画を立てたり、自分の考えをもち伝えるように表現しようとしていたりしているかどうか など

※あくまで2学年の国語の場合です。教科等により「評価する具体的な方法」は変わります。

このような方法をもとに、一人一人の学習状況を観点別にA、B、Cで評価します。では、A、B、Cをどうやって決めるのかについてですが、以下のようにしています。

- ① テストについては、正答率が90%程度を目安にAと評価します。逆に50%以下程度を目安にCと評価します。中間はすべてBと評価します。
- ② テストも含め、「評価する具体的な方法」に示したことにおいて「評価項目」の内容が大変よく身に付いていれば、その観点をAと評価します。逆に、半分以上についてもう少し努力や見直しが必要であればその観点はCと評価し、それ以外はBと評価します。
- ③ 「思考・判断・表現」を例に挙げると、例えばテストの正答率は90%以上だったものの、普段の授業で「目的に応じて内容を選び、考えたことを話す」ことや「相手に伝わるような書き表し方を工夫する」ことなど、いくつかについてもう一歩だったとすると、B評価になることがあります。つまり「評価する具体的な方法」に示したことを総合的に鑑み、最終的な各観点の評価とすることとなります。他の2つの観点も同様に評価します。

このように評価していきますと「B評価」がとても多くなります。よって、これまでの感覚で通知表をご覧くださいと「Aが少ない」「Bばかりなので成績が良くないのでは」と思われるかもしれませんが、「B評価」であれば各観点到った力が身に付いている、とご理解ください。

また、算数では、例えば「たし算とひき算」や「たし算とひき算のひっ算」の評価を、単純に単元ごとのテスト点のみでできた・できないと見るのではなく、2桁＋2桁のひっ算を学習した子が、3桁＋3桁の問題に出会ったとき、「これってさ、2桁たす2桁の時と同じじゃん！」とこれまでの学習を生かしている姿や、日常のちょっとした場面でノートの隅にひっ算を書いて計算しているなど、ひっ算の便利さに気づき、積極的に使おうとしている姿なども、「たし算とひき算のひっ算」を理解し自分の力としている姿（＝評価項目が身に付いている）として捉え評価していくことになります。

これは、体育なども同様です。個々の足が速い、水泳やドッチボールが上手ということだけではなく、育成すべき資質・能力（評価項目）が育まれているかを、それぞれの教科の中において3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）で評価していくということです。

ここまで新しい評価項目について説明をさせていただきましたが、そうは言っても国語、算数などは単元ごとに知りたい方もいらっしゃるかと思いますので、業者テスト等による成績分析を配布させていただきます。ご確認ください。

3 「行動の記録」について

特に頑張っていた 光っていた項目に◎を

10の観点で評価します。ここでは、見ていただく際の留意点についてお伝えします。

評価の観点	評価する具体的な項目
基本的な生活習慣	礼儀正しく行動し、節度を守り、節制に心がける。
健康・体力の向上	心身の健康と体力の向上に努め、元気に生活をする。
自主・自律	より高い目標をもち、課題に対し根気強く努力する。
責任感	自分の役割と責任を自覚し、信頼される行動をする。
創意工夫	進んで新しい考えや方法を求め、工夫して生活していこうとする。
思いやり・協力	思いやりと感謝の心をもち、協力して集団生活の向上に努める。
生命尊重・自然愛護	自然を愛するとともに、生命あるものを大切にする。
勤労・奉仕	働くことの意義を理解し、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	誰に対しても公正・公平に行動する。
公共心・公德心	きまりを守り、文化や礼儀を大切にし、学校や人々の役に立つことを行う。

- ・10項目のうち「たいへんよく当てはまる」項目に◎ 「あてはまる」項目に○ 「後期のがんばりしにしてほしい」項目に△を付けています。
- ・そのため、行動の記録についても、ややもすると「◎が少ない」「生活態度があまりよくないのでは？」となりかねませんが、そうではない（◎は最大でも3つである）ことをご理解ください。

前期、すべてのお子さんが自分の出来る頑張りをしました。「A、B、Cの数がそれぞれいくつだからできた、できない」とならないように、ぜひ、よい姿を評価していただきながら、後期の頑張りにつながるお話をしていただけましたら幸いです。

通知表だけでは伝えきれいなお子さんの様子を個別懇談会の際に、具体的な様子やエピソードを交えてお話しさせていただきます（※そのため、前期の通知表に「総合所見」はありません）。
ご不明な点がありましたら遠慮無くご相談ください。

個別懇談会、よろしくお願いいたします。

余談ですが、皆さんは社会科は好きですか？「社会科は苦手！」という人の多くは、「暗記が嫌！」という方もいるのではないのでしょうか。私も、社会科は、各地の山や川の名称、特産物のデータ、歴史事象が起きた年号などをたくさん覚えること（=知識量）が学力だと長年思っていました。

しかし、これらの名称やデータ、年号などは、時代が進むにつれて多くが変わってきており、これからも変わっていくでしょう。（例えば・・・ウクライナの首都は、「キエフ」から「キーウ」と呼び方が変わりました。今、世界で一番人口の多い国は「インド」です！中国ではありません。。。）
さんざん暗記した「いい国（1192）つくろう鎌倉幕府」も今の教科書には鎌倉幕府が始まった年とは書かれていません）私がかつて覚えたことの多くは、これからは使えない知識だということになります。しかも、今は覚えなくても検索すればすぐに分かります。

これからの社会科は、「名称や年号を必死で覚えること」が大事なのではなく、「なぜその場所ではその特産物がたくさんとれるのか？」「なぜその時その出来事が起きたのか？」「この戦争が起きた原因は何か？」「どうしたら多くの人が選挙に行くようになるのか？」「世界が平和になるために自分にできることは何か？」こういった疑問を持ち、自分で調べ、みんなで考え、自分の言葉で説明できることが大事となるわけです。これからの時代を生きる子どもたちを育てる私たち自身の学力観や意識改革がまず必要ではないかと思います。世の中は大きく変わり、必要な学力も確実に変わってきています。